卒業論文

農村における自治組織の地域権力構造

――鹿児島県 K 市 Y 町内会の調査から

平成 20 年度入学
九州大学　文学部　人文学科　人間科学コース

平成 24 年 1 月　提出

要約

本研究では、アンケート調査とインタビュー調査のデータをもとに、声価法と争点法の 2 つを併用することで、農村における地域自治組織の地域権力構造を明らかにすると同時に、地域権力構造における地域自治組織の役割について考察する。

第 1 章では、地域権力構造と地域自治組織のそれぞれについて先行研究をもとに、本研究の位置づけを行う。地域権力構造は「C.P.S 研究の誕生と変遷」、「日本における地域権力構造研究」、「地域権力構造研究と C.P.S 研究との違いと問題点」の 3 つ、地域自治組織は「地域自治会の歴史」と「地域自治組織の評価と社会学的位置づけ」の 2 つからこれまでの先行研究の位置づけを再確認し、本研究の位置づけを明らかにする。

第 2 章では、本研究の目的と仮説について記述する。第 1 章で述べた先行研究と本研究の位置づけを考慮しつつ、本研究における調査、分析、考察の目的を提示するとともに、それらの目的を検証するための 2 つの目的を設定する。この章で設定した目的や仮説は第 6 章において検証する。

第 3 章は、筆者が本研究の調査のフィールドに選定した「Y 集落の概要」と「Y 町内会の特徴」、そして筆者が実際に行った「調査の概要」について記述する。「Y 集落の概要」では、Y 集落の地理的特徴と現在の状況、Y 町内会の概要について述べ、「Y 町内会の特徴」では、Y 集落の属する K 市内の町内会と Y 町内会の比較から、地域的特性に左右されない Y 町内会独自の特徴を把握し、筆者が Y 集落を調査のフィールドに選定した理由を論じた。「調査の概要」では、筆者が Y 集落で行った調査について、調査対象者の選定方法や質問項目まで多岐に渡り記述した。

第 4 章は、調査によって得たデータを声価法によって分析し、Y 集落における地域権力構造の権力の集中度やリーダー間のネットワークを記述した。ネットワークの属性から、リーダーをグルーピングした。さらに、リーダー個人の属性の共通点や相違点からグループの性質を明らかにした。本章で、第 5 章での分析のための土台を築いたと言える。

第 5 章では、主にインタビュー調査によって得たデータを争点法によって分析した。筆者は、Y 集落における 9 つの活動を「専門部型」、「住民参加型」、「外部者型」、「第 2 世代型」の 4 つに分類し、それぞれの型の活動の、発案段階、計画段階、承認段階、実施段階の 4 つの段階に関与する人物を把握することで、4 つの型それぞれの地域権力構造を明らかにした。また、それぞれの型の地域権力構造で Y 町内会がどのような役割を担っているかを把握することで、町内会という地域自治組織が活動決定集団にとってどのような意味を持っているかの考察を行った。

第 6 章では、第 4 章と第 5 章の分析から得た結果から、Y 集落における地域権力構造の支配モデルについての考察と、地域権力構造における活動実行集団にとっての地域自治組織の意味について考察した。Y 集落における地域権力構造の支配モデルの考察については、声価法が一元的支配モデルをあらわし、争点法が多元的支配モデルを示したの

で、2 つを有機的に合成することで、Y 集落の本当の地域権力構造を正確に捉えた。地域権力構造における活動実行集団にとっての地域自治組織の意味についての考察は、地域自治組織の役割が、どのような時に必要とされるのかを把握することで考察した。第 2 章で設定した目的と仮説については、本章で検証している。最後に調査のまとめと今後の展望を行っている。

目次

はじめに・・1

1. 先行研究・・2
1.1 地域権力構造・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
―1.1.1 C.P.S 研究の誕生と変遷・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
―1.1.2 日本における地域権力構造研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
―1.1.3 地域権力構造研究と C.P.S 研究との違いと問題点・・・・・・・・・・・・ 4
1.2 地域自治組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
―1.2.1 地域自治会の歴史・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
―1.2.1.1 江戸後期から明治前期・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
―1.2.1.2 明治中期から戦前・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
―1.2.1.3 戦時下から戦後・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
―1.2.2 地域自治組織の評価と社会学的位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

2. 本研究の目的と仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
2.1 本研究の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
2.2 仮説・・16

3. Y 町内会と調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
3.1 Y 集落と Y 町内会の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
3.2 Y 町内会の特徴と選定理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
3.3 調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

4. 分析Ⅰ・声価法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
4.1 リーダーと相談相手の選択・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
4.2 リーダーの関係性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
4.3 グループの性質・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33

5. 分析Ⅱ・争点法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
5.1 専門部型・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
5.2 住民参加型・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
5.3 外部者型・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51
5.4 第 2 世代型・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・58

6. 考察とまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
6.1 Y 集落の支配モデル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63
6.2 地域権力構造における地域自治組織の役割とその意味・・・・・・・・・・・・ 67
6.3 まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・72

参考文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・73

付録